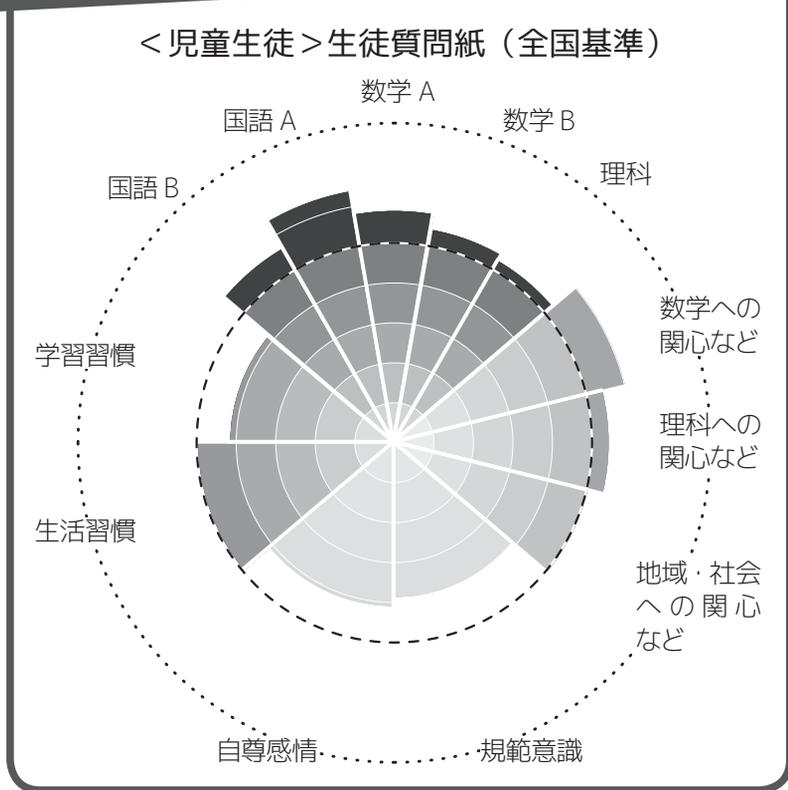


調査結果チャート (日野町中学校)



▼基本的な生活習慣、学習習慣が身に付いており、規範意識、自尊心も高い傾向にあります。

肯定的な回答が全国平均を5%以上上回っている項目数が42項目ある一方で、5%以上下回っている項目数は3項目しかありませんでした。また、肯定的な回答の割合が80%を超える項目数も43あり、肯定的な回答をしている児童が非常に多くいました。

領域別に見ても、ほとんど

中学校では

どの領域で肯定的な割合が高い値となつています。その中であつて、地域・社会への関心等と学習習慣において、若干低い傾向が見られました。

▼国語、数学、理科とも平均正答率は全国平均以上であり、それぞれの教科の力が身に付いています。

国語は、A問題、B問題とも全国平均正答率を上回りました。また、平均正答

数を上回った生徒も、A問題、B問題それぞれ7割を超えています。A問題、B問題の両方が平均正答率を上回った生徒も7割近くありました。学習指導要領の領域等の平均正答率は、ほとんどの区分で全国値を上回っています。

数学も、A問題、B問題とも全国平均正答率を上回りました。また、A問題で平均正答率を上回っている生徒は7割以上、B問題では、5割以上います。A問題、B問題ともに平均正答率を上回った生徒も半数を超えています。学習指導要

領の領域等の平均正答率は、ほとんどの区分で全国値を上回っています。

理科も、平均正答率を上回り、平均正答率を上回っている生徒は、7割を超えています。しかし、A問題、B問題ともに平均正答率を上回った生徒は4割に満たず、A問題、B問題のいずれかが平均正答率を上回っている生徒が、国語、数学と比較して多い結果となりました。学習指導要領の領域等の平均正答率は、全国値を上回る区分が多くなっていますが、観察・実験の技能が若干下回る結果でした。



課題の解決には学校だけでなく、家庭での取り組みも重要に

小学校6年時(平成27年度)と比較すると、標準化得点で、国語Aで5ポイント、国語Bで2ポイント、理科で2ポイント上昇しており、この間の学力の伸長をうかがうことができます。

▼生活習慣と比較し、規範意識、自尊心、学習習慣についての意識、態度に少し課題が

見られます。

肯定的な回答が全国平均を5%以上上回っている項目数が27項目と、5%以上下回っている項目数の2倍以上となつています。また、肯定的な回答の割合が80%を超える項目数も、全体の4割を超えており、肯定的な回答をしている生徒が多くいます。数学への関心等は80%を超えています。理科と地域・社会への関心等は低い傾向にあります。また、生活習慣は肯定的な回答率が高くなつています。規範意識、自尊心、学習習慣については肯定的な回答が全国平均よりも低くなつています。

成果のみられる部分

□小、中学校とも、ほとんどの調査で全国平均を上回っており、身に付けるべき力が確実に身に付いています。

□中学校3年生の結果を、3年前(小学校6年生時)と比較すると、国語A、B、理科とも上昇しており、この間の取組により学力が伸長していることがうかがえます。

□小、中学校とも、算数・数学への関心等、理科への関心等、社会・地域への関心等について肯定的な回答率が高く、学習に対する関心・意欲・態度が高い傾向にあります。

□小学校においては、規範意識、自尊感情、学習の基盤となる生活習慣や学習習慣とも高く、学習の基盤となる意識が高いことがうかがえます。

■課題となる部分

■資料活用能力

グラフや表、そのほかの資料から情報を的確に読み取る力に課題があります。

瞬時に多くの情報を手に入れることができるこの時代、自分が求めている情報を選別的に確に入手し、それを目的に応じて使い分けたり、説明したり、活用したりしていくことが必要です。各教科において資料を活用する場面で、指導者がそのねらいを意識し、授業を展開していく必要があります。

■「書く」こと

目的や意図に応じた書き方、条件にあった書き方など、自分で考えて書くこと

への課題があります。

授業や日常生活の中で、自分の思いや考えを友だちに分かりやすく説明したり、順序立てて言葉で書いたりすることも、その基礎となります。相手意識を持つた表現力を育成していくことが必要です。

普段の授業の中で、書く活動を意図的に組み入れたり、振り返りの時間を設定したりすることが大切です。また、「わけは」や「なぜなら」などの言葉を積極的に使用して根拠や理由を述べさせたり、単元を貫く言語活動を位置づけたりするなど、日々の積み重ねが重要です。

■自尊感情や自己有用感、自己効力感

肯定的な回答をしている割合は低くはないものの、全国値と比べると相対的に低くなっており、課題があると云えます。自分の考えを、自信をもって発表した、うまく言葉にできなかつたりするなど、自信のなさもこれらの意識の低さに関連があると思われる。

「ほめられる」ことも重要ですが、あわせて「感

謝される」ことで意識が高まってくると思われるので、子どもたちを頼りにし、そして感謝するという意識を、周りの大人が持つことが重要です。

■キャリア意識、社会への関心

キャリア教育との関連は、今回の学習指導要領の改定でも大きく取り上げられており、特別活動をはじめ、各教科でもその必要性、重要性が謳われています。夢がもてる活動、地域のことを考える活動、地域を愛する心情が育つ学習の推進が求められています。また、地域との連携や地域人材の活用などを積極的にを行い、地域とともにある学校づくりを行うことで、それらの意識が高まっていくと考えられます。

新聞を読んでいるかという設問に関して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は非常に低くなっています。新聞を活用するような授業を展開したり、新聞のよさを伝えたり、あるいは感じ取らせたりするような活動を仕組んでいくことも必要です。



しっかりと課題を見据え、学校での取り組みに生かされるか

パソコンやスマートフォン、タブレットを使用すれば欲しい情報をすぐに入手することができますが、文章が簡潔なものであったり、一つの記事についての文字量が少なかつたりというところがあります。一方で、新聞に書かれている記事は、文字量も多く、その内容も深いものが多くあります。新聞を読むことが習慣化されれば、読解力の向上にもつながるのではないのでしょうか。

■今後の取り組み

■主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを進めます。

■「めあて―まとめ―ふりかえり」を意識して、授業

改善を図ります。

■必要な情報を読み取り、活用するような授業を展開します。

■単元を貫く言語活動を位置づけたり、一時間の授業の中に言語活動を位置づけたりするように努めます。

■全国学力・学習状況調査の問題の意図を意識した授業づくりをします。

■「子ども新聞コーナー」などを活用したり、図書資料、図書館の有効活用を図ったりします。

■「分からない」が言えるなど、安心して話せる学級づくりを進めます。

■ノートの使用方、評価言の入れ方などについて、研究します。

■放課後を活用し、補充学習などを行います。

■読解プリント、標準学力調査補充プリントなどを、積極的に活用します。

■どのような学習をどのように進めるのかという学習方略を子どもたちに伝えます。

■計画表を作成するなどして、自分で学習する計画を立てるように支援します。

■家庭学習の時間(量)の確保と質の向上を図ります。